

カキ生育情報

千葉県
平成22年9月号

【8月の気象】

平均気温は、7月と同様にすべての半旬で平年を上回り、平年に比べ0.6~2.6 高く推移した。月平均気温は27.9 で平年より2.2 高かった。最高気温、最低気温とも平均気温の推移と同様に推移し、平年に比べそれぞれ0.6~3.0 、0.5~3.1 高かった。月平均では、最高気温は31.9 、最低気温は25.1 で、平年に比べそれぞれ1.7 、2.3 も高かった。本年は記録的な猛暑の夏であった。

降水量は、平年に比べ第2半旬で多かったが、他の半旬ではほとんどなかった。月合計降水量は47mmで、平年に比べ60% (70 mm) も少なかった。

日照時間は平年に比べ、第2、第3半旬で少なかったが、他の半旬では多く推移し、特に第5、第6半旬はかなり多かった。月合計日照時間は275時間で、平年に比べ25% (約55時間) 多かった。

なお、8月の気象データは館山測候所の観測値を引用した。

表1 平成22年8月の気象(館山測候所)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量 mm		日照時間 hr	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月	1	28.6	26.2	32.1	30.1	26.2	23.1	0	18	43	37
	2	26.8	26.2	30.9	30.3	23.5	23.0	45	17	30	37
	3	27.6	26.3	31.0	30.4	25.8	23.0	2	18	30	36
	4	28.4	26.2	32.6	30.3	25.5	23.0	0	20	46	35
	5	27.7	26.0	31.7	30.1	24.5	22.7	0	21	55	35
	6	28.2	25.6	32.8	29.8	24.9	22.2	0	25	71	40
合計/平均		27.9	26.1	31.9	30.2	25.1	22.8	47	117	275	220

【樹及び果実の生育】

暖地園芸研究所では、果実の大きさは西村早生では平年よりわずかに小さく、松本早生富有ではほぼ平年並になっている。西村早生、松本早生富有は7月までの生育の遅れが回復してきている。一方、富有は横径、縦径はともに平年より小さく、生育が遅れている。西村早生では果実の日焼けが例年より多い。また、いずれの品種も高温乾燥により、巻き気味の葉が多い。現在のところ、目立った病害虫の発生はない。西村早生は8月下旬から着色が始まっていることから、収穫期は平年とほぼ同様に9月中旬から10月上旬までと予想される。

いすみ市の西村早生では、昨年とほぼ同じ大きさに果実が生育している。また目立った病害の発生はないが、カメムシの発生がみられた。

市原市の松本早生富有では、果実の大きさは昨年よりやや小さくなっている。病害虫では、カキノヘタムシガの発生がわずかにみられる。

表2 果実の発育(平成22年8月30日)

品種	調査地	横径 cm			縦径 cm			果形指数		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
西村早生	いすみ市	6.1	6.0	-	4.5	4.4	-	1.33	1.36	-
	暖地園研	6.1	6.3	6.3	4.5	4.8	4.6	1.36	1.32	1.37
松本早生 富有	市原市	5.7	5.9	-	4.1	4.1	-	1.39	1.44	-
	暖地園研	6.2	6.0	6.3	4.8	4.6	4.7	1.28	1.31	1.34
富有	暖地園研	5.8	6.2	6.5	4.7	5.0	5.0	1.22	1.25	1.30

注) 果形指数 = 横径 / 縦径 .

平年値は暖地園芸研究所における平成2年から20年間の平均値 .

【9～10月の作業の要点】

収 穫

西村早生の収穫が始まり、いよいよ収穫シーズンの到来である。カキの果実は樹上で成熟しながら大きくなり、収穫後に品質が向上することはない。早採りすれば、大きさ、品質の面で適熟の果実に劣り、消費者にカキ本来の味を提供できなくなる。したがって、早採りは避け、収穫前にはカラーチャートを用い適熟の色を確認し、適熟果の収穫に努める。適熟の色はへた部の果皮色で判断し、西村早生、富有はへた部4、松本早生富有はへた部4.5を目安にする。西村早生では、渋果の混入を防ぐため、必ず渋果判定機による選別を行う。

追 肥

貯蔵養分の多少は、翌年の樹の生育と着花量を左右する。貯蔵養分を蓄積させるため、礼肥を施す。西村早生などの早生品種では収穫直後の10月中旬頃、松本早生富有、富有、次郎などの中晩生品種では着色初期となる10月中下旬頃を目安に、速効性肥料で施用する。窒素の成分量で、年間施肥量の15%程度となる2～3kg/10aが適当である。

病虫害防除

9月上旬～中旬にカキノヘタムシガ、コナカイガラムシ類を防除するため、バンド誘殺を行う。カキノヘタムシガの被害果は地中に埋没する。炭疽病またはうどんこ病の発生が多い園では、9月下旬までが防除適期である。防除の際には、早生品種と中晩生品種の混植園では収穫前使用日数に十分注意する。これらの防除は、千葉県農作物病虫害雑草防除指針に基づいて行う。

《生育情報の問い合わせ先》

千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 TEL 0470-22-2961

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産者向け情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>